

# ジオコーダ用住所データベース作成プログラム

## 1. 概要

このプログラムはオープンソースジオコーダで使用する住所データベースを作成するプログラムです。

元データとして、日本郵政公社の郵便番号データと、国土交通省の街区レベル位置参照情報を使用します。各ファイルは前もって、それぞれのホームページよりダウンロードし、必要な地域の CSV ファイルを一つのフォルダに格納しておきます。

このプログラムで作成する住所データベースは次の 6 つのファイルから構成されています。

- 1) 行政区域レコードファイル
- 2) 行政区域ハッシュテーブル
- 3) 町大字レコードファイル
- 4) 町大字ハッシュテーブル
- 5) 字丁目レコード
- 6) 地番街区符号レコード

このプログラムではこの 6 つのファイルを一つずつ作成していきます。

## 2. インストール

`makegeodata.lzh` を適当なフォルダにコピーし、解凍します。

解凍すると次のファイルが得られます。

- 1) `makegeodata.exe`
- 2) `mkgyoseirec.exe`
- 3) `mkgyoseihash.exe`
- 4) `mkchorecord.exe`
- 5) `mkchohash.exe`
- 6) `mkzarec.exe`
- 7) `mkgaikku.exe`
- 8) `kklib.dll`
- 9) `gcjlib.dll`
- 9) `gcj_gyoseimei.csv`
- 10) `gcj_variation.csv`

このうち、10) と 11) の 2 つの CSV ファイルを、このプログラムで作成する住所データベースを格納するフォルダにコピーします。

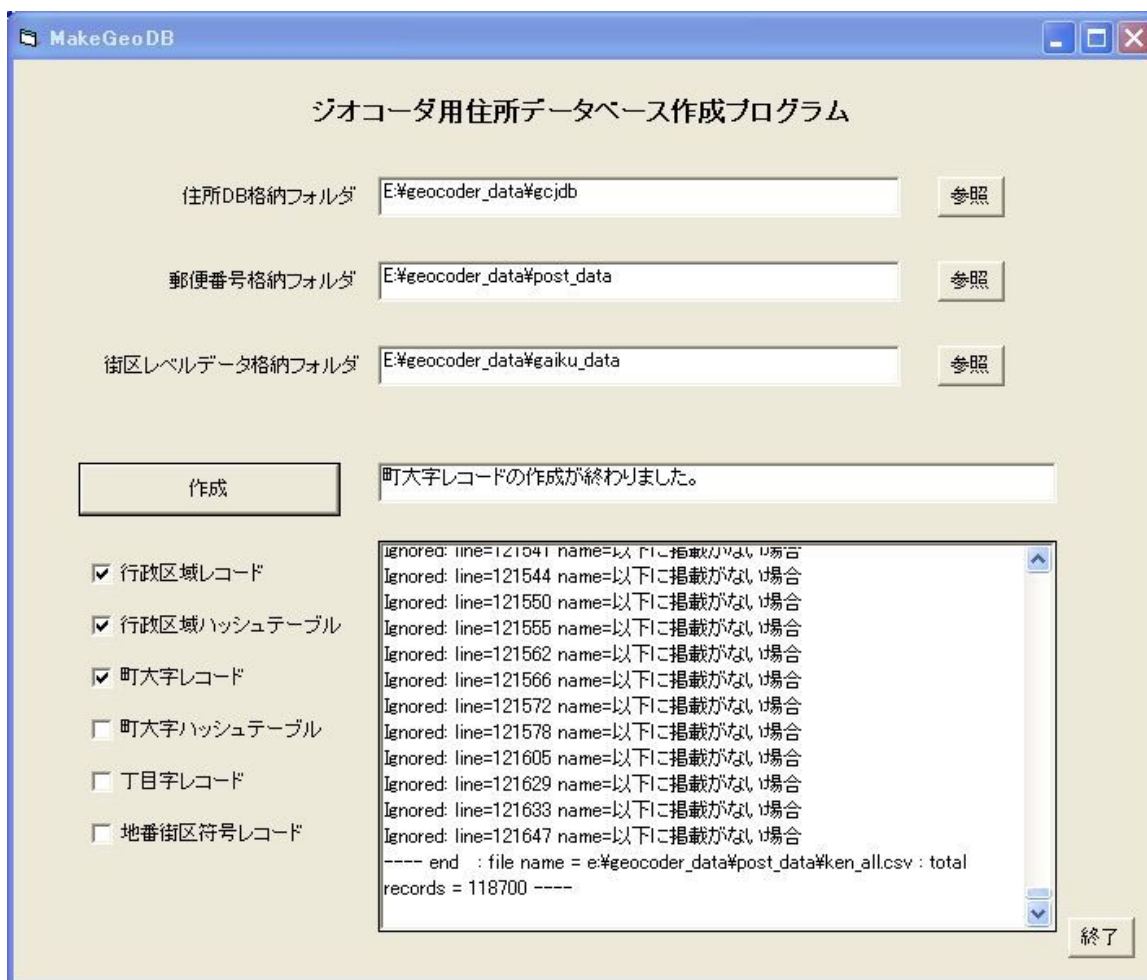
以上でインストールは終了です。

### 3. 操作方法

#### 3. 1 起動

makegoedata.exe のアイコンをダブルクリックします。

正常に起動できると次のウィンドウが開きます。



#### 3. 2 データフォルダの設定

##### 1) 住所 DB 格納フォルダ

作成する住所データベースを格納するフォルダを指定します。

このフォルダには `gcj_gyoseimei.csv` と `gcj_variation.csv` のファイルが存在しなくてはなりません。

##### 2) 郵便番号格納フォルダ

元データの郵便番号データを格納したフォルダを指定します。

全国一括の場合は `KEN_ALL_CSV` を一つだけ入れておきます。

県毎の `CSV` ファイルは作成する地域のみを格納しておきます。

##### 3) 街区レベルデータ格納フォルダ

元データの街区レベル位置参照情報データを格納したフォルダを指定します。

必要な地域の CSV ファイルだけをフォルダに入れておきます。

### 3. 3 作成レコードの設定

作成したいレコードのチェックボックスをチェックします。

各レコードはそのレコードより上のデータを参照しますので、すでに上位のデータが作成されている事を確認して、レコードのチェックをして下さい。

### 3. 4 作成の開始

“作成” ボタンを押すと作成を開始します。

途中の実行状況はウィンドウに表示されますが、作成レコードによっては表示がストップする事があります。おおよそ 10 分程度で作成が終わりますので、そのまま待ちます。

### 3. 5 実行結果の確認

実行結果はウィンドウに表示されますので、スクロールバーを操作して実行結果を確認し、エラーが出てないか調べます。

正常に実行が終了すると、住所 DB 格納フォルダに次のファイルが作成されます。

- 1) gcj\_gyosei.rec : 行政区域レコードファイル
- 2) gcj\_gyosei.hsh : 行政区域ハッシュテーブルファイル
- 3) gcj\_cho.rec : 町大字レコードファイル
- 4) gcj\_cho.hsh : 町大字ハッシュテーブルファイル
- 5) gcj\_aza.rec : 丁目字レコードファイル
- 6) gcj\_gaiku.rec : 地番街区符号レコードファイル
- 7) gcj\_jukyo.rec : 枝番住居番号レコードファイル
- 8) gcj\_string.rec : 地番文字列レコードファイル
- 9) gcj\_multipost.rec : 複数郵便番号ファイル

これらのファイルが無かったり、ファイルの容量が 0 の場合は正常に作成されていないので、原因を調査します。